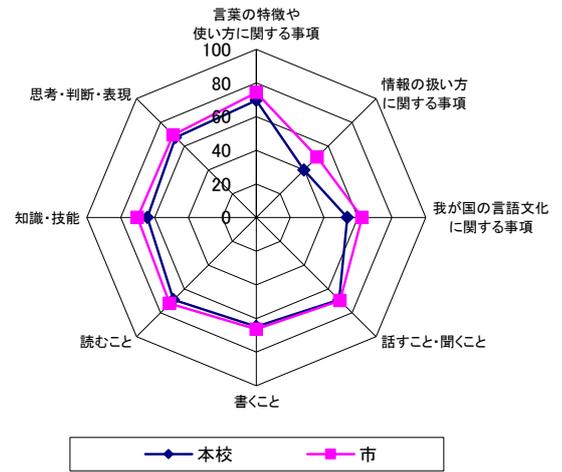


宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.7	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	39.8	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	53.7	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	69.1	69.9	69.7
	書くこと	64.8	66.4	64.6
	読むこと	69.1	72.3	71.0
観点別	知識・技能	64.3	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.4	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

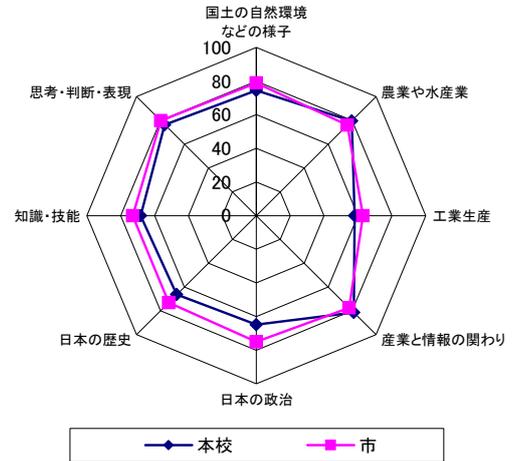
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○6学年の漢字の読みについては、良好である。</p> <p>●5学年の漢字の書きや、同じ読みの漢字の使い分けについて課題が見られる。</p> <p>●敬語の中で、特に謙譲語についての理解に課題が見られる。</p> <p>●熟語の成り立ちについての理解に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字の学習については、単純な反復練習に終始することなく、「漢字を使うと自分の考えが正しく伝わる」「漢字が使われていると意味が分かりやすい」といった実感がもてるような場が設定できるよう工夫する。</p> <p>・敬語、特に謙譲語は小学生にとって難しい内容であるが、日常生活と関連させた学習活動を行い、学習内容を理解できるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を書いたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・文章を読んだり書いたりする際に、「原因と結果」「理由と事例」などの関係について正しく捉えることができるようにしたい。そのため、表にまとめたり、矢印などを使って図示したりする活動を取り入れる。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>●漢字の成り立ちについての理解に課題が見られる。</p>	<p>・漢字の意味や成り立ちのおもしろさを感じられるよう、授業を展開する。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○話し手の目的に応じて、話の内容を捉えることができている。</p> <p>●互いの立場を明確にしながらか話し合い、考えをまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・「誰に何を伝えたいのか」「何のために話し合うのか」といった目的を明確にした言語活動を行う。</p> <p>・話し合いをする際には、自分の意見をノートやワークシートに記述したり、友達の意見との共通点や相違点に印をつけるなど明確化したりして、課題についての自分の考えをまとめることができるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段落構成で文を書くことができている。また、グラフから読み取ったことをもとに、自分の考えを書くことができている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・「誰に何を伝えたいのか」といった目的と、「どのような文種、どれくらいの分量で書くのか」といった手段を明確にした言語活動を行う。</p> <p>・「書いて伝えたい」という思いをもたせる単元の導入や、「書いたことが伝わってよかった」という活動の成果を感じられる学習展開の工夫を図る。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物語の内容の読み取りにおいて、登場人物の心情や行動を描写をもとに捉えることが、市の正答率をやや上回っている。</p> <p>●説明文の内容の読み取りにおいて、文章の構成や論の進め方について捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・「自分の心に響く作品を紹介するために読む」「自分の表現に生かすために読む」といった、単元のねらいを明確にして学習を進める。</p> <p>・説明文において、話題と結論を意識し、指示語の示す内容や段落のつながりを捉えたりさせることで、内容を理解することができるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.4	78.9	75.4
	農業や水産業	79.6	76.1	71.2
	工業生産	58.0	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	81.5	77.6	59.7
	日本の政治	64.8	75.0	79.3
観点別	日本の歴史	66.4	73.1	72.8
	知識・技能	68.3	73.0	71.4
	思考・判断・表現	76.4	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



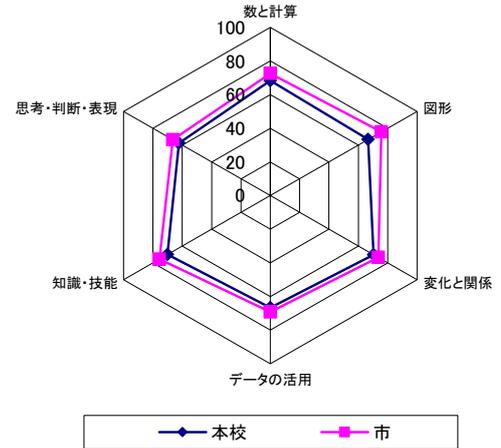
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均より4.5%低い。</p> <p>○東日本大震災の被害について答える設問では、98.1%の児童が正解している。</p> <p>●日本の海洋名について答える設問では、市の平均が87.3%に対して本校は75.9%であった。日本の森林が天然林と何があるか問われ、人工林と記述する設問では、市の平均が69.3%に対して、本校は63.0%であった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・地図帳を活用し、日本の地形や自然・土地の活用などを自分たちの生活と結びつけながら考えさせたりまとめたりする機会を、授業の中で意図的に設定していく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○白地図に都道府県を選び作図する設問では市の平均が61.7%に対して本校は74.1%であった。</p> <p>●水産業に関わる複数の資料から、誤ったものを選ぶ設問では市の平均が83.2%に対し、本校は79.6%であった。それぞれの資料の内容を的確に読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・水産業に対して、児童は馴染みがないこともあり理解が深まっていない様子が見られる。表やグラフが何を表し、そこから何を読み取ることができるか解説する時間を確保する。また、資料を基に自分の考えをまとめる課題を意図的に設定することで、提示された資料から大切な情報を選んだり読み取ったりするとともに、資料から必要なことをまとめる技能の向上を図っていく。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●自動車工業の作業工程について問われる設問では、市の平均が70.1%に対して本校は61.1%であった。大工場と中小工場について資料を読み取る設問では市の平均が52.8%に対し、本校は46.3%であった。大工場と中小工場の関連についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・工業生産の様子について資料を基に考えをまとめる場を設定しながら、自動車工業に限らず、日本の工業や世界との関わりなどについて再度丁寧に確認し、理解を深められるようにする。</p>
産業と情報の関わり	<p>平均正答率は、全国平均より21.8%、市の平均より3.5ポイント高い。</p> <p>○インターネットを利用するときの注意点について問われる設問では、92.6%の児童が正答しており、全国平均の73.5%を大きく上回った。</p> <p>○資料に着目し、ポイントカードの利点を考えて記述する設問でも、全国の平均が46.0%に対し、本校は70.4%であり、24.4ポイント上回った。</p>	<p>・本校では学年に応じて情報モラルについての指導を行っている。今後も継続していく。</p> <p>・インターネットを授業の中で活用しており、自分たちの生活と関連付けながら資料を基に考える力がついてきていると思われるため、さらに積極的に活用する。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均より10.2%低い。</p> <p>●非核三原則の説明について問われる設問では、市の平均が79.9%に対して本校は64.8%であった。</p> <p>●国会の仕組みについての答える設問では市の平均を10.1ポイント、裁判の仕組みについて資料を読み取る問題では、7.4ポイント下回り、政治への関心に課題がみられる。</p>	<p>・普段の生活の中に、私たちの生活が日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、立法・行政・司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを折に触れて指導し、内容を理解できるようにする。</p> <p>・各学年の実態に応じて、新聞を活用する場を設け、身近な話題から政治への関心を高められるようにする。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市平均より6.7%低い。</p> <p>●飛鳥時代に起きた出来事を答える設問では、市の平均より14.4ポイント下回り、本校は44.4%であった。</p> <p>○元寇後の日本について資料を読み取る設問では、市の平均が76.4%に対し、本校は87.0%であった。</p> <p>●室町時代の文化について答える設問では、市の平均を15.1ポイント下回り、本校は59.3%であった。</p>	<p>・児童が日本の歴史に興味をもてるような資料や教材を、積極的に活用する。</p> <p>・タブレット等を活用し、調べ学習を取り入れて知識を広げ深められるようにする。</p> <p>・AIDリル等を活用し、知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.4	72.6	73.1
	図形	66.7	75.7	74.7
	変化と関係	70.4	73.6	66.1
	データの活用	66.7	69.2	70.7
観点別	知識・技能	70.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	62.3	66.5	67.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

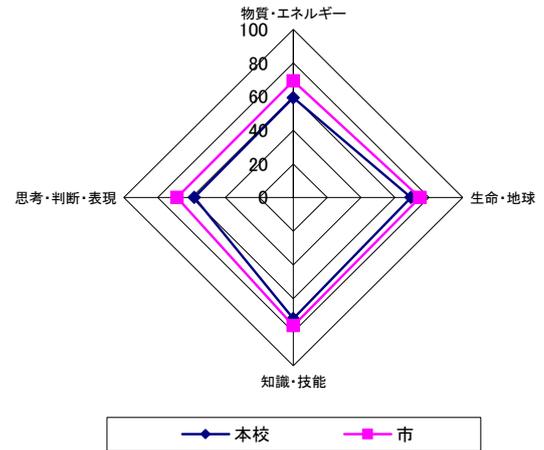
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す問題の正答率は70.4%で、市の平均を上回った。</p> <p>●分数の計算で通分をする必要がある問題の正答率が61.1%と低く、市の平均を13.8ポイント下回った。</p>	<p>・朝の学習や宿題等で基本的な計算力の定着に向けた繰り返し練習を継続するとともに、習熟度別学習を生かして発展的な問題を解決する力も身に付けられるよう個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>・問題文を読み取って数量の関係を図で表したり、図を読み取って式を立てたりする活動を積極的に取り入れ、図を用いて考えたり説明したりする力を育む。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題は、81.5%で市の平均を上回った。</p> <p>●線対称な図形の対応する点を見つける問題の正答率は38.9%と低く、市の平均を10.0ポイント下回った。</p>	<p>・三角形や四角形など、図形を構成する辺の長さや角の大きさについて調べたり、合同な図形を描いたりする活動を十分取り入れ、内容を理解できるようにする。</p> <p>・低学年から、同じ形を選んで分類させたり長さを測ったりする活動を多く取り入れ、図形を識別する感覚を高められるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は70.4%と他の領域より高い。また、全国の平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>○半分が何%であるか考える問題の正答率は、90.7%と市の平均を上回った。</p> <p>●速さの単位の関係を考え、分速を秒速や時速に直す問題の正答率が50.0%と市の平均を下回った。</p>	<p>・問題文から変化する2つの数量の関係を読み取り、表や図で表して整理し、問題の内容を理解できるようにする。</p> <p>・低学年から、大きさを考えて適した単位を選んだり、正しく単位を変換したりする学習を丁寧に行い、理解を深められるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○データの見方において、度数分布表を完成させる問題の正答率が90.7%と高く、市の平均を上回った。</p> <p>●円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題の正答率が、33.3%と低く、課題が見られた。</p>	<p>・算数科に限らず他教科においても、児童にとって必然性のある課題を与え、必要なデータを主体的に収集・分析し、その結果をふまえて課題を解決したり、意思決定したりする力を身に付けられるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.4	69.3	65.7
	生命・地球	69.4	74.7	77.8
観点別	知識・技能	72.0	76.2	76.4
	思考・判断・表現	58.4	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>●振り子の振れ幅と1往復する時間の関係を調べるための実験を計画する設問の正答率は40.7%で、市の平均57.4%を下回った。</p> <p>●ろ過の仕方では正しくないところを指摘する設問の正答率は37.0%で市の平均64.2%を下回った。</p>	<p>○実験方法を考えたり実験の予想を行ったりする際に、実験結果を正しく比較するためにはどのような手順を踏めばよいか見通しを立て、記述する活動を取り入れる。</p> <p>○観察や実験の結果から考えられることを正しく考察するために、学習問題に立ち返り、何を明らかにするための観察・実験であるか確認しながら学習を進めていく。</p> <p>○自分の考えを書く設問の誤答や未回答の割合が高くなっている。予想や考察を記述する機会を多く設けたり、書き出しの言葉や定型文を示したりしながら、書くことに慣れさせるようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○台風に備えた行動として不適なことを選択する設問の正答率は94.4%で市の平均93.7%を上回った。</p> <p>●唾液のはたらきを調べるときの水の温度を選択する設問の正答率は37.0%で市の平均55.6%を下回った。</p> <p>●月の満ち欠けを再現する実験で、三日月形に見えるときのボールの位置を選択する設問の正答率は53.7%で市の平均65.0%を下回った。</p>	<p>○理科の授業で学んだ台風に関する知識と、避難訓練をはじめとする日々の安全指導を通して学んだ災害時の適切な対応を関連付けて理解を深めることができている。引き続き、理科の知識と実生活中的の事象を関連付けて児童の興味・関心を高める授業の展開を工夫する。</p> <p>○温度や時間、量など、条件を揃えて実験を進めて結果が得られるよう、教材研究、及び事前の指導を丁寧に行う。</p> <p>○実際に観察する機会を設けたり、映像教材を用いたりすることで、月の見える形が日によって変化することを実感できるようにする。また地球、太陽、月の位置関係について、再現実験を通じて児童が確実に理解できるようにする。</p> <p>○観察・実験を行った際に、結果を図や表にまとめる活動を多く取り入れることで、図や表の描き方や読み取り方への理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立岡本北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追求する言語活動の推進	児童が主体的に取り組める課題を設定し、単元や本時のねらい達成に向けて、グループや学級全体での協動的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。	アンケートの「教科の授業が好き」や「話し合いに進んで参加している」、「理由(根拠)をあげながら自分の考えを話す」への肯定的回答は、学年間のばらつきが大きく、市の平均を下回っているものが多い。課題設定の仕方やグループ、全体での話し合い活動が、児童の意欲向上や学習内容の理解につながっていない様子が伺える。
基本的な学習内容の定着を図る指導の充実と家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	算数では、単元に応じて少人数学習や習熟度別学習、IT体制で授業を進めている。また、教員間で児童の情報を共有し、個々に応じた指導の工夫、改善を図っている。「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた学習時間の目安や内容を提示している。	基本的な学習内容が身に付いているとは言えず、課題が多い。今後も教材研究を確実にを行い、単元の展開の仕方や教材を工夫するなど、指導内容を見直していく。アンケートの「学習内容をその日のうちに復習している」や「間違えた問題をもう一度やり直している」などの肯定的回答の割合について、学年間の差が大きい。家庭学習に取り組む時間は、学年が上がるほど市の平均より短くなっている。
1人1台端末を用いたICTを活用した授業	タブレット端末についての研修を進め、授業での活用を図っている。タブレット端末を利用したAIDリルを活用し、学力向上を図っている。	アンケートの「キーボードによる文章入力」や「調べたことをパソコンを使ってまとめる」について、市の平均より低く学年間の差も見られるが、昨年度と比べると全体的に上昇している。タブレット端末を利用した学習活動は進んでいるものの、児童の学習内容の理解、定着には課題が見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基本的な学習内容の定着と活用力の向上に向けて、課題設定や授業の展開を工夫するとともに、学習のまとめや振り返りの場面で、学習したことやまとめ、考えたことを書かせたり児童同士で確認したりすることで、内容の理解を深められるようにする。また、話し合い活動を全教科、領域で日常的に行い、友達から学ぶよさを実感できるようにする。
- ・読書記録を活用して読書への啓発を図る。また、自主学習や日記などで日常的に文章を書く活動に慣れさせるとともに、授業で分かったことや自分の考えを明確に書けるよう、継続的に指導・支援する。
- ・家庭学習の課題の内容を精選し、学年に応じた家庭学習の十分な時間と質を確保できるようにする。
- ・タブレット端末の利用について、操作方法の習得にとどまらず、各教科や単元のねらいの達成、及び学力向上に向けて効果的に取り入れられるようにする。